

特集
へえ〜っ、そうなんだ!?
〜昔の人はすごい!!〜

第53回



！手荒れは牛乳が防いでくれる

家事や仕事で手が荒れてしまう事は、悲しいけれど仕方のない事です。おばあちゃんの知恵袋を借りて予防に努めましょう。



家事や仕事で手が荒れたら、牛乳を洗面器に入れ、お湯で10倍くらいに薄めます。この中に手を入れ、良くマッサージをしてタオルでふき取ると・・・ビックリ!手が滑らかになり、手荒れを防いでくれます。足先や肘のカサカサにも効果があります。



*昔から、「おばあちゃんの知恵」といわれているものは、長年の経験に基づいた先人たちの知恵の凝縮です。わたしたちも入居者の皆様から、たくさんの「へえ〜っ、そうなんだ!?知らなかった〜!昔の人はすごいなあ〜」と、実感できるアイデアを日々、教わっています。

(参考文献:宝島社 おばあちゃんの知恵袋 決定版 生活のコツ700 編集/佐藤倫子)

編集後記

温かくなり春らしい陽気になってきました。桜の花も春の陽気で一気に満開をむかえました。コロナ禍の為、お花見で宴会・・・というわけにはいきませんが、気分転換も兼ねて花を見ながらの散歩や適度な体操を行い、元気に過ごしましょう。

グループホームこんぴら・サンライズこんぴら広報誌「こんぴらだより」第59号
発行元：グループホーム こんぴら・サンライズ こんぴら 編集者：こんぴらだより発行部
住所：〒766-0002 仲多度郡琴平町167 TEL:0877-73-0811 FAX:0877-73-0812
ホームページ <http://www.eisei-hp.or.jp/> (永生病院のホームページよりお進みください)
eメールでのお問い合わせは keiryokai@eisei-hp.or.jp
発行年月日:令和4年4月15日



グループホーム こんぴら
サンライズ こんぴら

vol.59 2022

グループホーム こんぴら

行事報告

サンライズ こんぴら

行事報告

利口げな話

特集:「へえ〜っ、そうなんだ!?
〜昔の人はすごい!!〜」 第53回

編集後記

関連機関

支援医療機関 介護保険事業所



永生病院
〒769-0311
仲多度郡まんのう町買田221-3
Tel 0877-73-3300

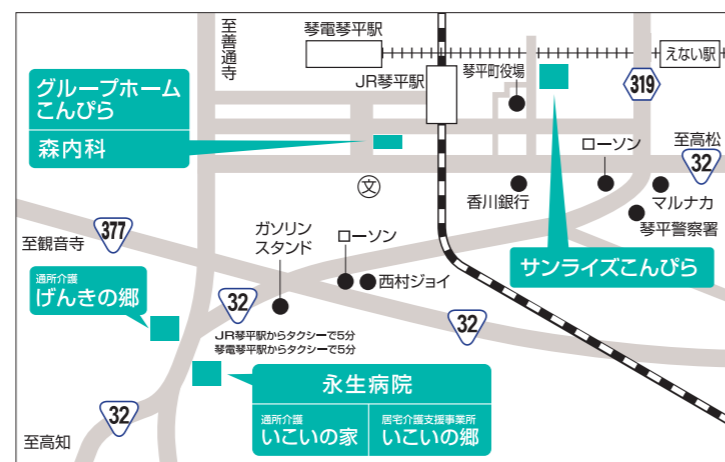


森内科 (グループホームこんぴら)
建物の1階
〒766-0002 仲多度郡琴平町167
Tel 0877-73-4188
グループホームこんぴら
Tel 0877-73-0811



サンライズこんぴら
(小規模多機能型居宅介護)
〒766-0004
仲多度郡琴平町榎井字池田451番地1
Tel 0877-58-8600

- いこいの郷 (居宅介護支援事業所) Tel 0877-73-3655
- いこいの家 (通所介護) Tel 0877-73-3718
- げんきの郷 (通所介護) 〒769-0311 仲多度郡まんのう町買田102-1 Tel 0877-58-8811



KEIRYOKAI
produced by
医療法人 圭良会

グループホームこんぴら Group Home Konpira

●基本理念

家庭的温かさ・個人の尊厳を大切に、豊かな生きがいのある共同生活が送られるよう、家族の一員としての介護支援を行います

●基本方針

- 1.家庭的で安全な療養環境を提供します
- 2.24時間家族の一員がそばにいる安心感がもてるよう介護支援を行います
- 3.自分らしさを尊重した生活が送られるよう入居者の健康増進を図り個別性のある介護支援を行います

～雛まつり～

戸明かりを付けましょ ぼんぼりに～の歌を唄い、昼食にはちらし寿司をみんなで食べました。入居者様からは、「桃の節句には毎年お母さんがお寿司を作ってくれて、それはそれは美味しかったんよ」「雛あられが美味しかった」「お雛様は早う片付けんとお嫁に行き遅れる、言いよったがな」と話が弾んでいました。お雛様にもお茶とちらし寿司を飾り、「また来年逢いましょう」と記念写真をカシャリ!!楽しいひと時を過ごしました。



取り組み レクリエーション

コロナ禍が続く外出の機会が減っているため、レクリエーションの時間に紙芝居と絵本の読み聞かせを始めました。入居者様は「なつかしい」「あそこに紙芝居やさんが来て、みんなで見たなー」「水あめを食べたけど、あれいくらやったのかな？」等と思い出話が弾んだり、「雪女」や「金色夜叉」など昔懐かしい紙芝居に真剣に聞き入っていました。

また、絵本の読み聞かせでは、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を入居者様自身が大きな声で読んでくれるなど新しい発見もありました。今後も思うように外出ができない中でも、楽しんでいただけるような取り組みを増やしていこうと思います。



サンライズこんぴら Sunrise Konpira

●基本理念

住み慣れた地域の中で、その人らしく暮らし続けられるよう、在宅生活の支援を行います

●基本方針

- 1.通い泊まり・訪問のサービスを、随時組み合わせた介護支援を行います
- 2.地域の中での関係を大切に継続するとともに、個性を尊重した支援を行います
- 3.365日24時間切れ目のない安心した在宅生活が送れるような支援を目指します

～散歩～

コロナ禍になり利用者様と一緒に公園に行ったり、遠足等の外出の機会が少なくなっていました。そこで運動の機会を増やし季節を感じていただく為に、天気の良い日には庭で過ごす時間を設けています。

元気に庭を歩いた後は外の椅子に座り、一緒に歌を唄ったり、利用者様同士であやとりを教えあったり、3時のおやつを食べたりもしています。利用者様からは、「外に出て歩くと足腰が元気になる。良い気分転換や。」「みんなで一緒に歌を唄えて嬉しい。」「見て!!花が咲いとるで。春が来たなあ〜。」との声が聞かれ、一足早く春の訪れを感じることができました。



琴平町史跡紹介 ～町立琴平公会堂～

気品ある日本建築、公会堂は昭和9年に建てられました。木造平屋建築で、敷地も広く、美しい庭園もあります。終戦後から現在まで数々の催しが行われてきました。その美しい和風建築が認められ、登録有形固定資産に指定されています。

公会堂は場所柄を考慮して、お寺や神社風のデザインとなっています。大きな入母屋屋根のホール棟に、小さな和室棟と唐破風のある玄関棟がくつつく形で玄関棟には一般用玄関と貴賓用玄関があります。建物内部は非公開ですが現在も集会や催しに使用されたり、「四国こんぴら歌舞伎大芝居」の際にはスタッフの休憩所などとして使われています。(琴電琴平駅より徒歩10分)



利口げな話

第32回

認知症や介護について、分かりやすく説明したいと思います。

身近な家族が認知症になったら、まずは「認知症はどのような病気なのか」をよく知ることが大切です。例えば、尊敬していた両親が、簡単なこともできなくなっていく姿に、はじめは戸惑うことも多いと思います。現実が受け入れられず、絶望感につながることもあるかもしれません。また、何度言っても忘れてしまったり、言うことを聞いてくれないと感じて怒りが湧くこともあると思います。

絶望や戸惑いは、色々なことができなくなっていく本人が一番強く感じています。理不尽な態度や理解しがたい行動を取ったとしても、そこには本人なりの理由があるはずです。その理由がわかれば、「こういうものなんだな」と納得したり、怒りが収まることもあるでしょう。大切なことは「認知症を理解すること」です。本人の行動について「この行動の裏にある理由はなんだろう」と考えながら対応しましょう。



認知症介護で心がけたい対応

① 尊厳を守る

認知症を発症しても「全てがわからなくなる」わけではありません。現在は、認知症になっても地域社会で尊厳のある生活を送れるよう、地域全体で支える施策が進められています。

② できることは自分でしてもらおう

認知症は突然何もできなくなるものではありません。介護者は、親切心や危ないからという理由で、様々なことを代わりにやっけてしまいがちですが、自分でできることはどんな小さなことでも積極的にやってもらいましょう。自分で行うことがリハビリにもつながります。

人間にとって、役割を持つことや人の役に立つことは、自尊心を保ち心の安定を保つ一助になります。本人ができることを一緒に考えて日々の生活に取り入れてみましょう。

③ 否定せず行動の背景にある理由を考える

どんな言動にも、その背景には必ず本人なりの理由があります。否定してしまうと「受け入れてもらえない」と感じてますます強く主張したり、意固地になる場合があります。

例えば、徘徊を繰り返す認知症の人の場合、毎日会社へ出勤していた、毎日畑で農作業をしていた、など今までの生活背景による場合もあります。

本人にとっては、行きたい場所があって出かけたものの、途中でわからなくなった結果、徘徊しているのかもしれませんが。どこに行きたいのか、何がしたいのか、本人の話を聞きましょう。本人が落ち着くまでしばらく一緒に散歩を試みるのも効果的です。

(参考HP: 認知症ねっと <https://info.ninchisho.net/care/c20>)